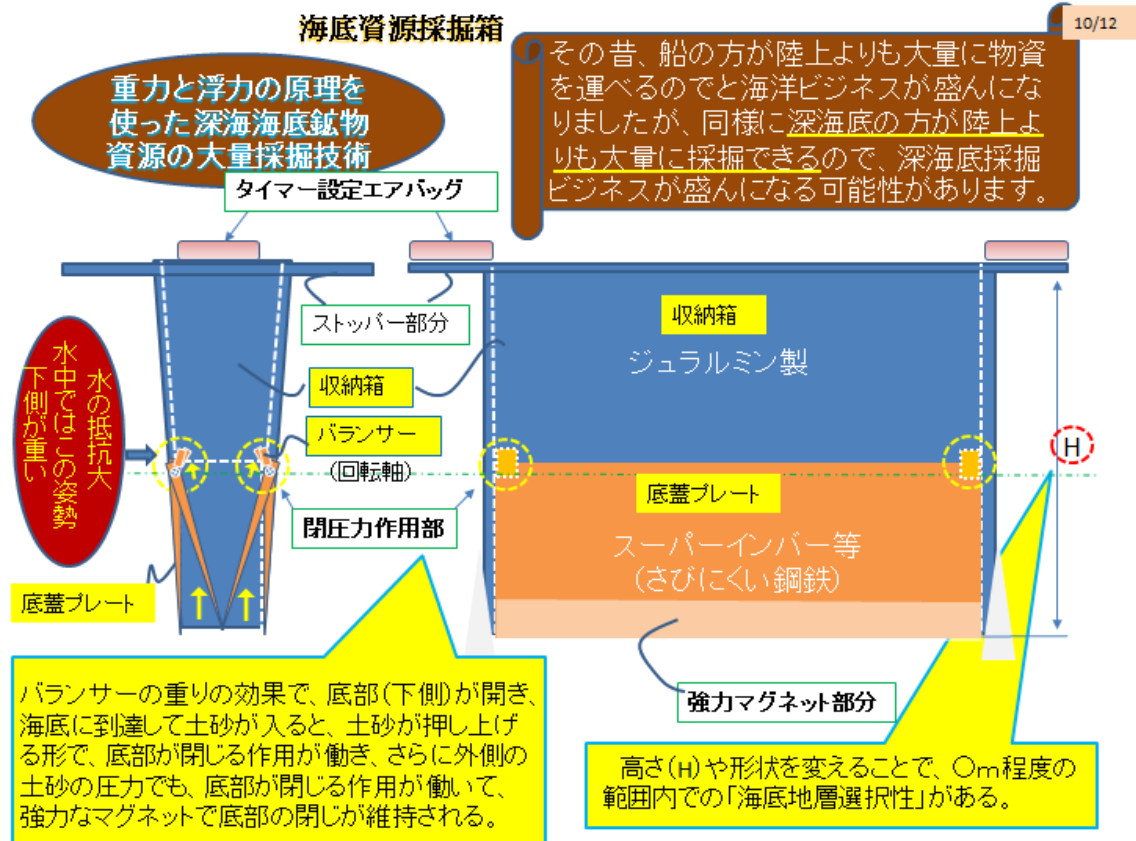


レアアース輸出大国日本

黄金の国ジャパン

「公海の深海に眠る金の採掘の低コストで簡便な「海底資源採掘箱」の提案」

「海底資源採掘箱」とは、4辺の下側が尖った底なしの該収納箱を海上から海底に落とし、落下の勢いで海底の土砂に食い込んだ該収納箱の内側の土砂により、該収納箱に付帯した二つの底蓋プレートの先端が合わさり、また強力なマグネットの力で維持されて、底蓋を形成し、また該収納箱の海中落下時間を考慮したタイマーが働き、エアバッグが展開し、該エアバックの展開による浮力により、海底の土砂を収納した該収納箱を海上に浮上させるものです。



下記の内容に沿い「海底資源採掘箱」へのチャレンジ取組（への方針作成）をお願いできないでしょうか？

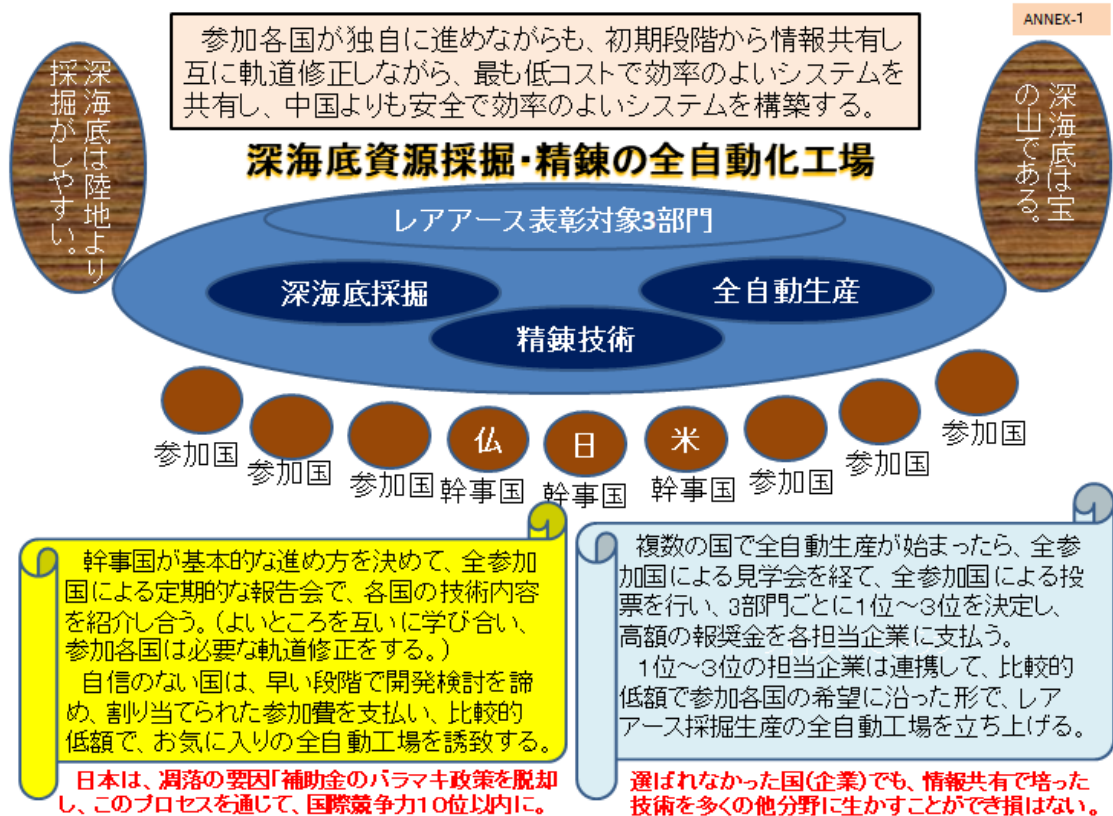
「海底資源採掘箱」のベストなものを追求するプロセスはとても面白く遣り甲斐のある研究技術だと思います。

海底資源採掘箱のチャレンジ取組可否のご返信をいただけますと助かります。

<内閣府 SIP プログラム担当様への依頼事項>

1. 深海底のレアアース泥の採掘は「海底資源採掘箱」により、陸上におけるレアアースの採掘よりも簡単で低コストであることをご認識されて、広く情報発信をお願いできますと助かります。

2. 第一添付書類をフランス又はEU、米国との情報共有をお願い致します。：第二添付書類の ANNEX-1 のような形で進めたい意向の打診を彼らに伝えていただけますと助かります。
3. 日本が開発の主導権を握るために、まず「海底資源採掘箱」の研究開発を早期にメーカーや大学等に取り組みのお願いができますと助かります。
(第二添付書類の P12 及び第三添付書類をご参照下さい。)



第一添付書類：

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_0b4c9a79db85465d87ab0bb9d4b6d3b0.pdf

(↑NG の場合：「木造人工島」で検索し「ガーデンフィールド」の HP にて、A4 程度をスクロール「Global carbon neutrality」をクリックして下さい。)

第二添付書類：

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_0844d0d18376453d9ef996261d838098.pdf

(↑NG の場合：「ガーデンフィールド」の HP にて、A4 程度をスクロールして、「日米仏共同事業」をクリックして下さい。)

第三添付書類：

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_1b22fc2454ae41d5ab56ca6abb13ebd8.pdf

↑NG の場合：「ガーデンフィールド」の HP にて、A4 程度をスクロールして、「レアアース採掘特許草案」をクリックして下さい。)

(補足説明)

公海上の金の採掘を独占的に日本だけで進めると、中ロだけでなく、米欧等からの反発もあり、無関係ななにかの制裁を課されたり、場合により中ロからの軍事目標にされかねないので、米国やEUと技術協力をし、しかも彼らが中ロからの口撃の盾になり、連携は欠かせないと考えています。

連携が必要な理由は、もう一つあります。日本は国際競争力 38 位で、米国やフランスと同等な技術力は既にないと考えています。例えば (通信技術世界一位を誇っていた) NEC が、5G の基地局を政府から受注したものの、その技術力は既になく、サムソンから技術を購入して対応している等・・・

AI 技術による採掘・精錬の 24 時間全自動化を達成するために、米欧の協力が必要です。

日本の技術力低下は、各省庁の補助金のバラマキ政策によってもたらされ、例えば、オーストラリアの褐炭事業では、「実施宣言&大宣伝→莫大な補助金受領→やっているふりだけでほとんど何もしない (技術の研鑽がない) →数年後に撤退宣言で終了」のようなことをやっており、他に、「ブルーカーボン」「空飛ぶ車」「レベル 4 の実証実験」等があり、デブリの取り出しや新規半導体事業の Rapidus 等は、とても難度が高いにも関わらず本気度が足りず、同類項ではないかと想定しています。

国際連携による情報共有を経て、(国際競争力 38 位以下になっている状況、NEC・富士通のパソコン事業や最後に残ったソニーの TV 事業が中国企業に買収され、また日本の再エネ市場が中国企業に席卷され、日本の山林を買いあさり環境破壊を起こすメガソーラを設置している状況を踏まえ) これではいけないと気づき、AI を含むハイレベルな技術力を取り戻すことを期待しています。



(↑ : AI が作成した、黄金の国ジパング)

日米欧が協力して、南極や北極、グリーランド付近等の公海に、CO2 を吸収してくれる木造人工島のブルーカーボンを設置し、海藻の育成管理や栄養分の補給、SeaSola 等のメンテナンス要員を派遣し、世界のカーボンニュートラルの早期達成のためにと、国際採掘権を獲得した上で「海底資源採掘箱」を海底に投下し金銀銅やレアアース等の採掘を同時に行うと効率よくできます。